

国語科学習指導案

期 日 : 平成19年2月8日

場 所 : 宮小学校5年教室

学 級 : 5年生(男子15名、女子5名)

授業者 : 松野 園子

1. 単元名 場面をつないで人物の心情の変化をとらえよう
「大造じいさんとガン」

2. 指導の立場

(1) 教材観

本教材は、狩人の「大造じいさん」とガンの頭領「残雪」との間に繰り広げられる生存をかけた厳しい戦い(知恵比べ)と、好敵手「残雪」への大造じいさんの素直な感動が描かれている物語である。

いまいましく思いながらも「たかが鳥のこと」と考えていた大造じいさんが、残雪の知恵や、頭領らしい勇気と責任感を感じさせる行動、態度に素直に感動し、残雪に感情移入していつの間にか応援している心の動きが、緊迫した雰囲気の中で生き生きと描かれている。

この単元では、生き生きと描かれた行動描写からだけでなく、情景描写、自然描写からも登場人物の心情を読み取り、そこから心情の変化を読みとらせたい。

子供達は、「読むこと」領域においてこれまでに次のような学習をしてきた。

5年生の最初の単元「本に親しみ人間を見つめよう」『新しい友達』では心情描写、行動描写から人物の心情を読み取る学習をしてきた。「人物の考え方や生き方をとらえよう」『わらぐつの中の神様』では、行動描写、会話から、人物の人から、考え方、心情を読み取る学習をしてきた。

本単元では、「場面をつないで人物の心情の変化を想像する力」をつけさせたい。

(2) 児童の実態

男子15名女子5名のクラスである。いろいろな場で全員挙手にこだわり、一人一人の意見をまとめて作りあげることの大切さを語ってきた。クラスの半数は積極的に手を挙げることができ、その雰囲気、苦手な児童も手が挙がるようになってきた。たくさんの児童が発表することによって、言葉と言葉をつなぐ読みとり方も広がり、できる子が少しずつ増えてきている。

つきたい力からみた児童の実態は以下のようである。

- | | | |
|--|-----|----|
| A 場面をつないで人物の心情の変化を想像したり、変化した理由まで想像したりすることができる。 | ・・・ | 8人 |
| B 場面をつないで人物の心情の変化を想像することができる | ・・・ | 6人 |
| C その場面だけで内容を理解する。 | ・・・ | 6人 |

本時では、Cの子が場面をつないで大造じいさんの心情の変化を想像できるようにしたい。

Bの中にも、何となく分かるがうまく表現できなくて困っている子もいる。そういう子には、話型を示して、自分の考えたことや友達の意見から学べたことを整理しやすくしたい。

3. 研究テーマにかかわって

研究主題

仲間と共に学び合う子の育成

～ 考え、学び合い、高まる授業をめざして ～

(1) 研究内容1 「自分の考えをもつことができるようにするための指導のあり方」

『大造じいさんになって気持ちの変化が残雪に伝わるような手紙を書こう』を単元を貫く課題とすることで、活動の見通しをもちやすくする。

貫く課題について設定した5つの言語意識は次の通りである。

相手意識：大造じいさんになったつもりで学級の仲間へ話す。

目的意識：大造じいさんの残雪に対する気持ちがどのように変化していったかがわかる。

場面意識：学級での発表

方法意識：行動描写、自然描写、情景描写から大造じいさんの気持ちを想像し、前の場面とつなげて考えていく。

評価意識：大造じいさんの気持ちの変化が伝わったか。

前時までの学習と関連づけて考えたり、比べたりできるように学習の歩みを掲示する。

自分の考えを書く時間を確保する。

(2) 研究内容2 「伝え合う場の設定のあり方」

話型を示すことによって、考えたことをどのように話せば良いのか明確にする。

児童がさらに立ち止まって考えを深めることができるように、焦点化する課題を投げかける。

焦点化する課題のところで十分話しあえるよう時間を確保する。

机間指導でつかんだ個の様子をもとにした意図的指名をする。

(3) 研究内容3 「1時間の学びをその子の力にすることのできる授業のあり方」

話型を提示し自分の考えたこと友達の意見から学べたことを整理しやすくする。